

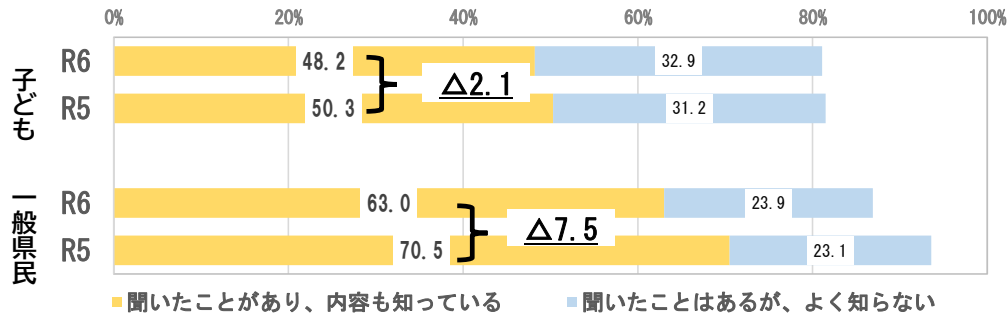


調査対象等

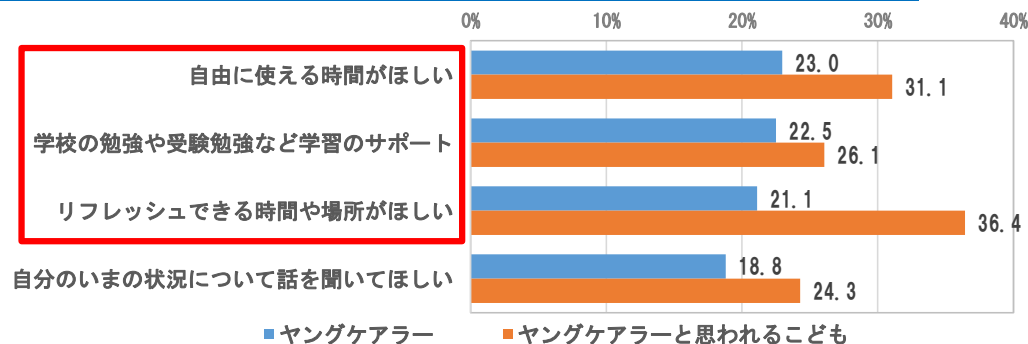
調査名	対象	目的	対象者数	有効回答数
子ども調査	県内の学校に通う小学6年生、中学生、高校生	ヤングケアラーの認知度、相談状況、必要とする支援内容等を把握	約53,000人	22,737人
県政モニター調査	モニター調査会社に登録している18歳以上の県内在住者	ヤングケアラーの認知度、日常の地域活動等におけるヤングケアラーへの関わり方等を把握	400人	400人

主な調査結果

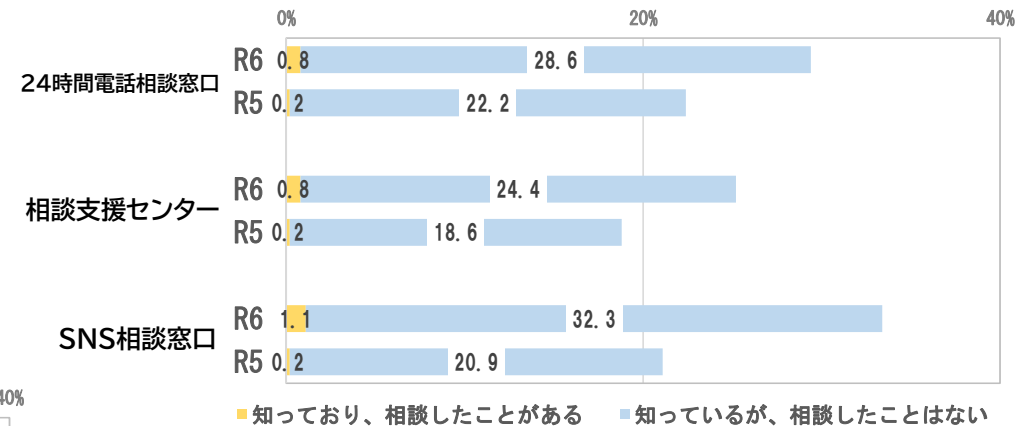
① ヤングケアラーの認知度



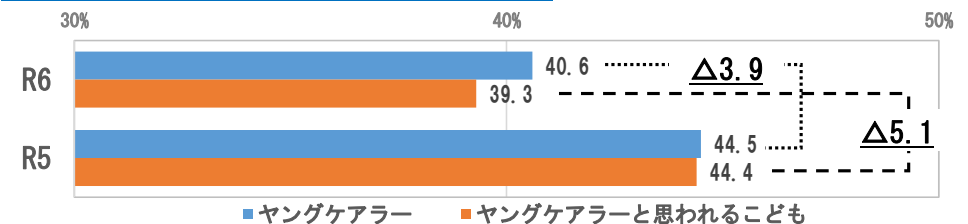
③ ヤングケアラー等が周りの大人に助けてほしいこと(複数回答、上位の支援)



②-1 相談窓口の利用状況(子ども)



②-2 学校で大人に相談した割合(子ども)



成果と課題等

①ヤングケアラーの認知度向上と正しい理解の促進

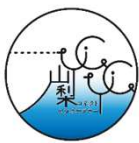
- ヤングケアラーの認知度は、昨年度から子ども、一般県民いずれも低下(子ども:△2.1 一般県民:△7.5)しており、特に子どもの場合は小学生の低下(△6.3)が顕著
- 子どもの場合、ヤングケアラーを知った方法を「学校」と回答する割合が最も高いことから、**学校における啓発活動(出前授業や啓発物の配布等)を強化**するとともに、一般県民に対しては、**SNS等の様々な媒体を活用**し、わかりやすい情報発信を行うことで正しい理解を促進していくことが求められる

②相談しやすい環境づくりの推進

- ヤングケアラーに関する県の相談窓口は、昨年度からすべての窓口の認知度が向上(特にSNS相談窓口が増加)しており、県の啓発活動に一定の成果
- 一方、ヤングケアラー等が自身の悩みについて、学校で大人に相談した割合は、昨年度から低下(ヤングケアラー:△3.9 ヤングケアラーと思われる子ども:△5.1)しており、ヤングケアラーが安心して相談できる環境を整備するため、**学校関係者等に対し、ヤングケアラーの特性、接し方、支援方法を学ぶための研修への参加を促す**ことが求められる

③ヤングケアラーなどの子ども自身への支援

- ヤングケアラー等が周りの大人に助けてほしいことで上位のもの(「特になし」を除き)は、「自由に使える・リフレッシュできる時間や場所」「学習のサポート」などの割合が高い状況
- **家族ケアの負担軽減を図るための福祉サービス**が適切に利用されるよう、市町村や支援機関との連携強化を図るとともに、**子どもへの学習支援や居場所づくりの提供**等を通じて、子どもたちが安心して学び成長できる環境づくりが求められる



1 子ども調査

- ・ヤングケアラーの認知度は「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合が48.2%と、令和5年度調査と比較して2.1ポイント減少しており、特に、小学6年生で6.3ポイント減少している。一方、高校生(通信制)では18.2ポイント増加している。
- ・ヤングケアラーを知った方法は「学校」や「テレビ」が高い。小学生は「テレビ」が、中学生と高校生は「学校」が最も高い。
- ・自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもの割合は、1.9%で令和5年度調査より増加している。また、ヤングケアラーと思われる子どもは1.2%で、令和5年度調査より減少している。

◆ 調査対象、回収状況等

令和6年9月10日～10月18日 webにて回答

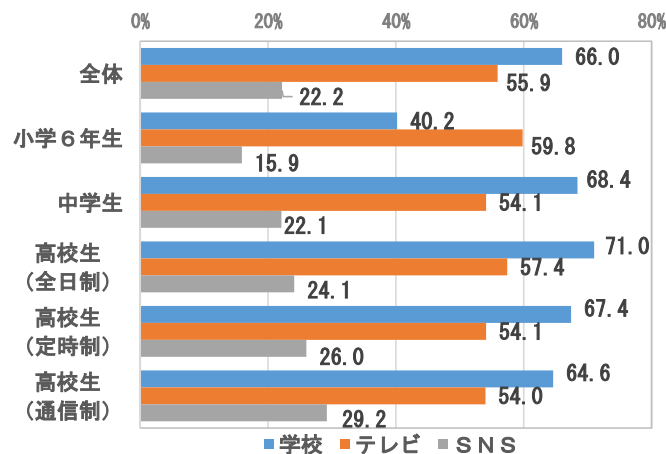
※全体には学年不明が含まれる。

対象	有効回収数	(参考)令和5年度有効回収数
全体	22,737	25,242
小学6年生	4,292	5,289
中学生	10,939	14,316
高校生(全日制)	6,781	5,112
高校生(定時制)	543	396
高校生(通信制)	137	97

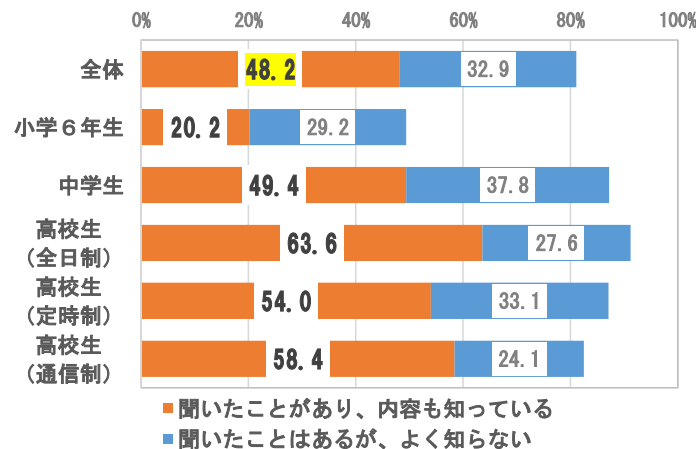
(単位: 人)

■ ヤングケアラーを知った方法

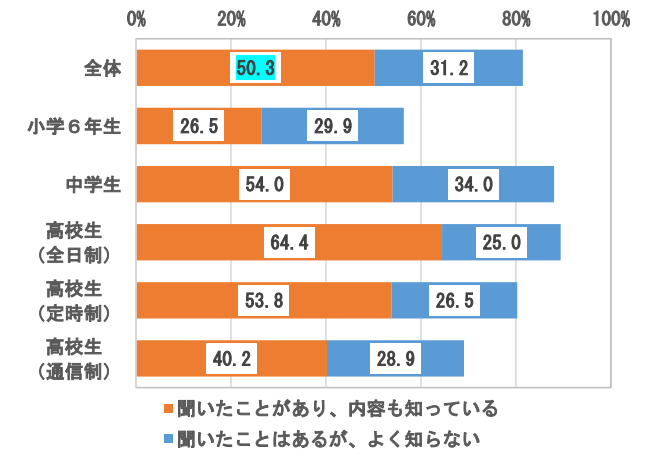
「ヤングケアラー」を知った方法(上位3つを掲載)



■ 「ヤングケアラー」の言葉の認知度

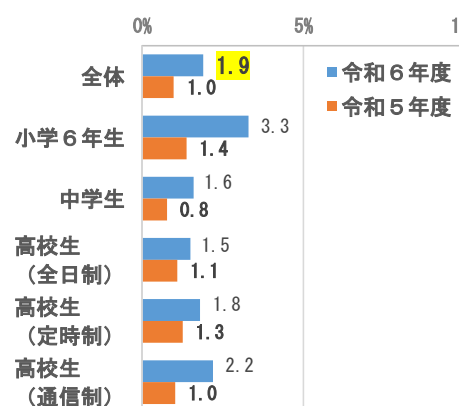


(参考)令和5年度調査「ヤングケアラー」の認知状況

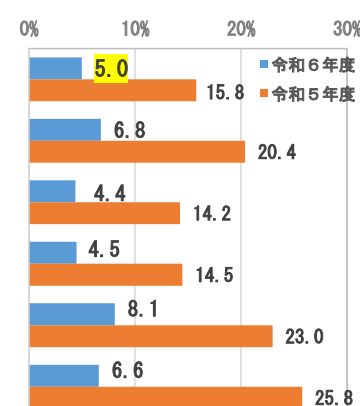


■ ヤングケアラーの存在

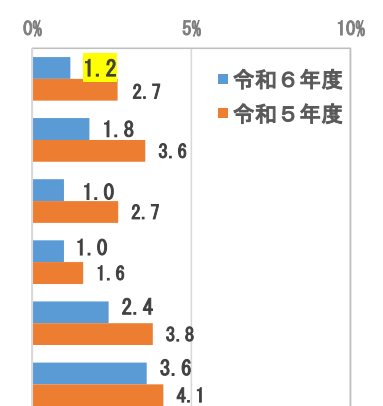
ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子ども



ヤングケアラーが「わからない」と回答した子ども



ヤングケアラーと思われる子ども※



※「ヤングケアラーと思われる子ども」は、自分がヤングケアラーであるが「わからない」と回答した子どものうち、現在悩んだり困っていることとして、家族関係の悩みや困り事などを回答した子ども

・現在抱えている悩みや困りごとの状況を「ヤングケアラー」(ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子ども)、「ヤングケアラーと思われる子ども」、「ヤングケアラーではない子ども」でみると、「ヤングケアラー」や「ヤングケアラー」と思われる子どもは、ヤングケアラーではない子どもに比べ、家族のことに関することや、自分のために使える時間が少ないことについての悩みの割合が高い。中でも「ヤングケアラー」と比べ、「ヤングケアラーと思われる子ども」の割合が高い。

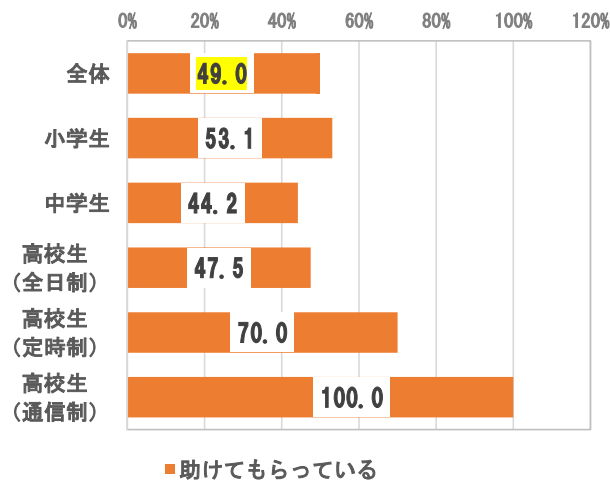
■ 現在抱えている悩みや困りごと（複数回答）

		友人との関係のこと	勉強のこと(学校の成績など)	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゅくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと(学費、集金など)	家庭のお金のこと(食費、物を買うお金や塾などの費用、お金がないことなど)	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の日本語での読み書きや会話の手伝いや通訳をしないといけないこと	自分のために使える時間が少ない	特にない
全体	ヤングケアラー	25.1	48.3	37.1	15.8	4.4	5.1	8.8	13.9	10.2	4.6	1.4	11.8	27.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	42.5	62.9	61.8	28.2	9.3	12.5	15.7	53.9	36.1	16.1	4.6	38.9	0.0
	ヤングケアラーではない	15.8	41.3	36.0	10.9	1.2	2.0	1.9	3.9	2.8	0.8	0.2	2.5	39.3
小学生	ヤングケアラー	30.8	32.9	23.1	11.2	3.5	2.1	4.9	16.8	9.8	5.6	0.7	10.5	32.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	46.8	43.0	51.9	17.7	7.6	10.1	12.7	46.8	40.5	15.2	6.3	40.5	0.0
	ヤングケアラーではない	17.4	20.6	20.6	6.7	1.8	0.6	1.4	3.8	2.7	0.8	0.1	2.3	54.8
中学生	ヤングケアラー	25.0	66.9	44.2	19.8	6.4	4.7	9.9	14.5	12.2	2.3	0.6	12.2	21.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	42.5	82.3	66.4	34.5	13.3	8.0	12.4	59.3	36.3	14.2	5.3	32.7	0.0
	ヤングケアラーではない	16.3	49.1	35.4	10.9	1.4	1.1	1.4	4.2	2.9	0.7	0.2	2.2	36.7
高校生(全日制)	ヤングケアラー	19.8	41.6	47.5	16.8	2.0	9.9	10.9	8.9	6.9	6.9	3.0	10.9	27.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	40.0	60.0	64.3	30.0	5.7	20.0	22.9	54.3	31.4	18.6	1.4	47.1	0.0
	ヤングケアラーではない	14.7	42.2	45.8	13.8	0.6	4.0	2.8	3.5	2.9	1.0	0.2	3.0	33.8
高校生(定時制)	ヤングケアラー	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	30.0	50.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	46.2	30.8	69.2	30.8	7.7	23.1	23.1	69.2	30.8	23.1	7.7	38.5	0.0
	ヤングケアラーではない	8.8	34.9	41.1	8.6	0.6	3.1	3.5	4.9	2.3	0.4	0.6	3.1	39.4
高校生(通信制)	ヤングケアラー	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	ヤングケアラーと思われる子ども	0.0	60.0	60.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	ヤングケアラーではない	17.3	43.3	47.2	11.0	1.6	4.7	3.1	3.1	4.7	2.4	0.8	4.7	39.4

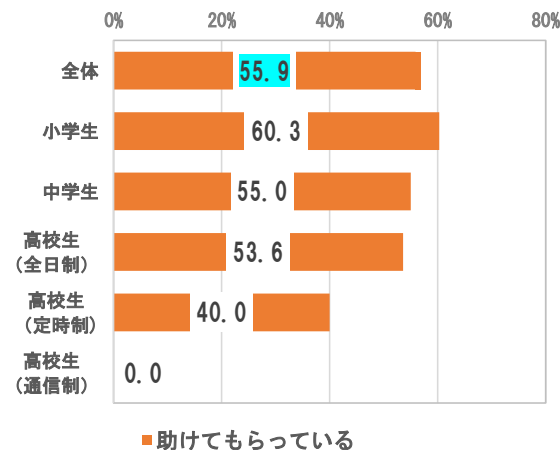
・ヤングケアラーが家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているかについて、「助けてもらっている」と回答したのは49.0%で、昨年度の調査に比べて、助けてもらっている割合が低くなっている。

・周りの大人に助けてほしいことで上位にあがっているのは、「特にない」を除き、「リフレッシュできる時間や場所」「自由に使える時間」「現在の状況を聞いてほしい」「勉強のサポート」となっており、上位ではないものの、ヤングケアラーは「家族の世話についての相談」や「お世話を代わってくれる人やサービス」をあげる人が約4～8%いる、一方「ヤングケアラー」と思われる子どもは、「自分の時間」「話を聞いてほしい」「将来の相談」等がヤングケアラーより高い。

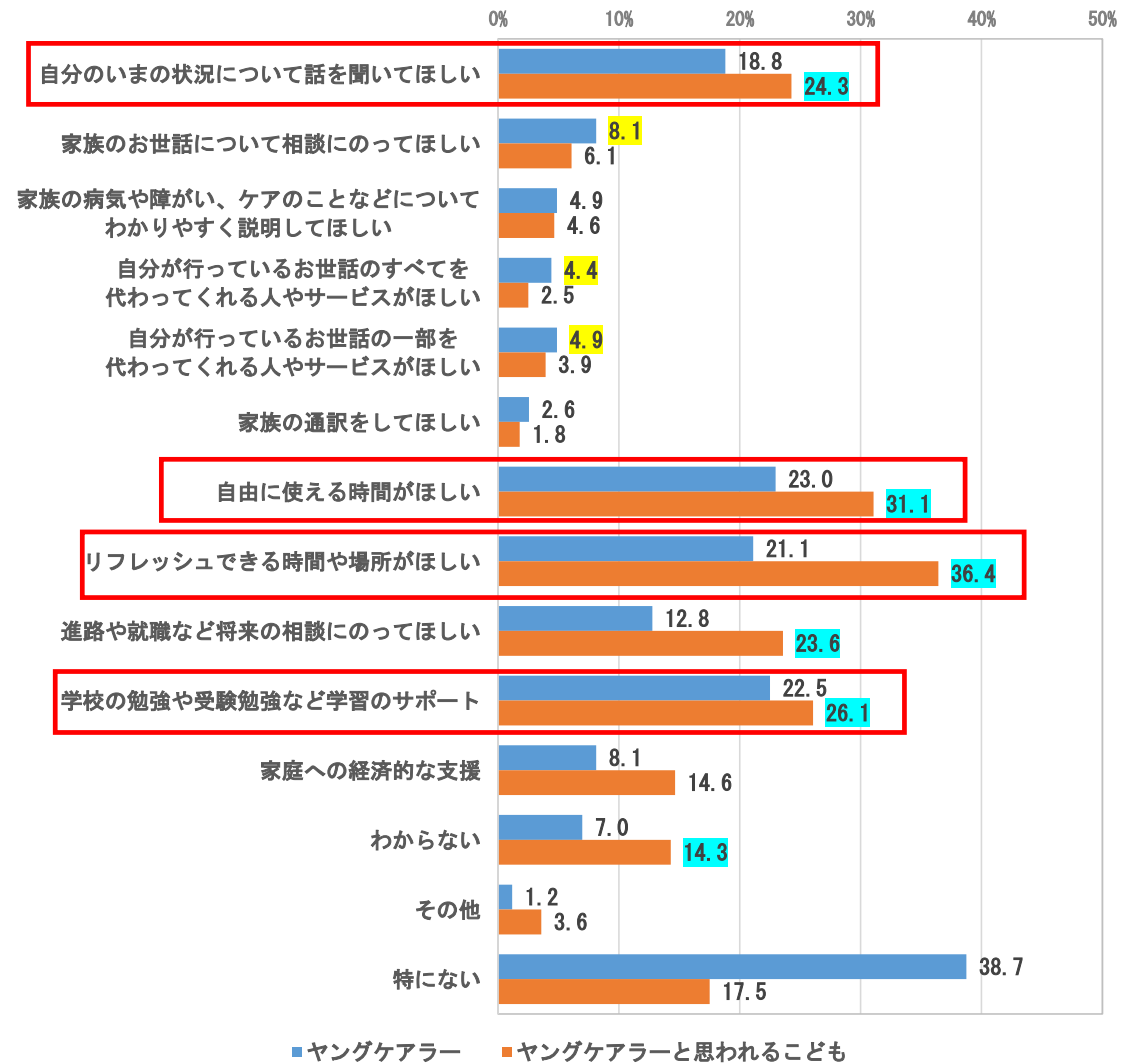
■ ヤングケアラーが家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか



(参考)令和5年度



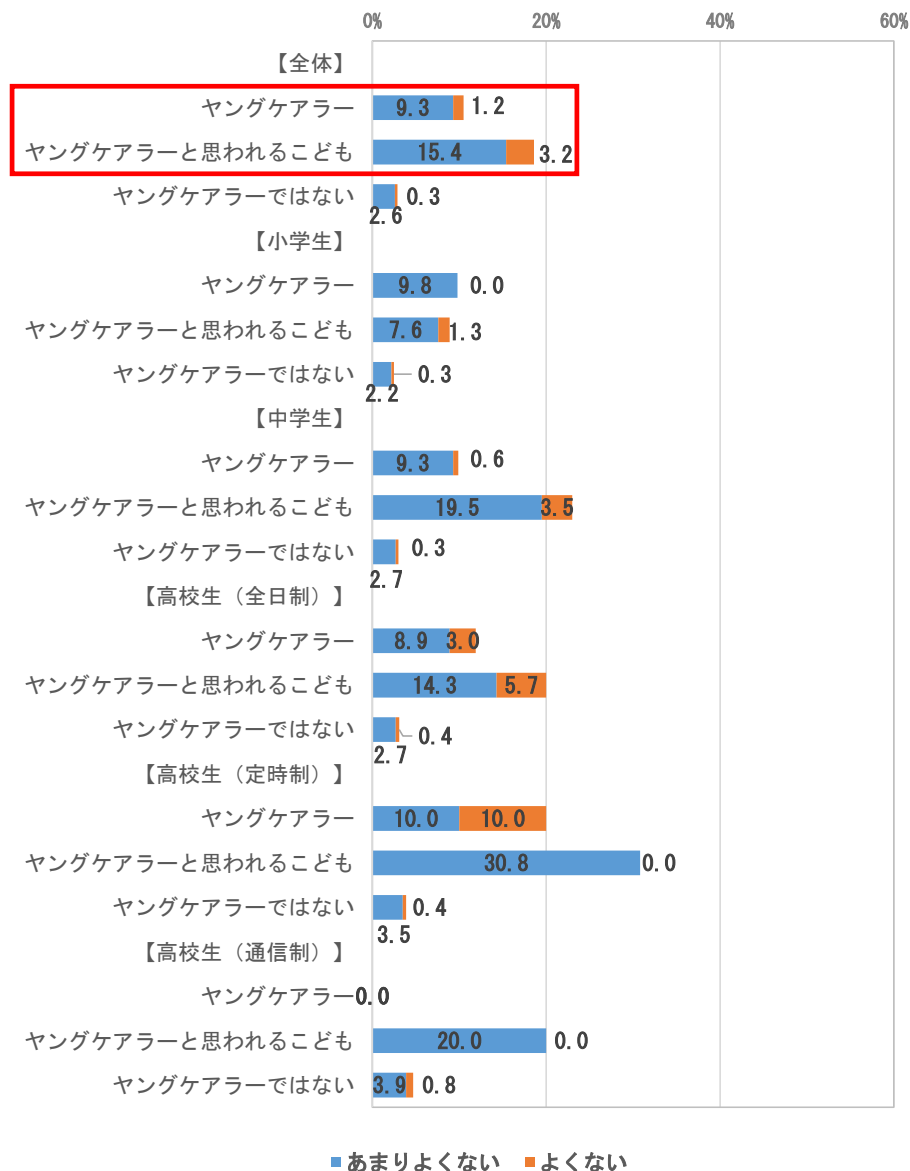
■ ヤングケアラーや「ヤングケアラー」と思われる子どもの周りの大人に助けてほしいこと、必要な支援(複数回答)



- ・「ヤングケアラー」「ヤングケアラーと思われる子ども」は、ヤングケアラーでない子どもに比べ、自身の健康状態を「あまりよくない」、「よくない」とする割合が高く、特に、「ヤングケアラーと思われる子ども」が健康状態がよくないとする割合が高い。
- ・生活満足度の平均は、「ヤングケアラー＋ヤングケアラーと思われる子ども」は6.0点と、ヤングケアラーではない子どもに比べ低い。

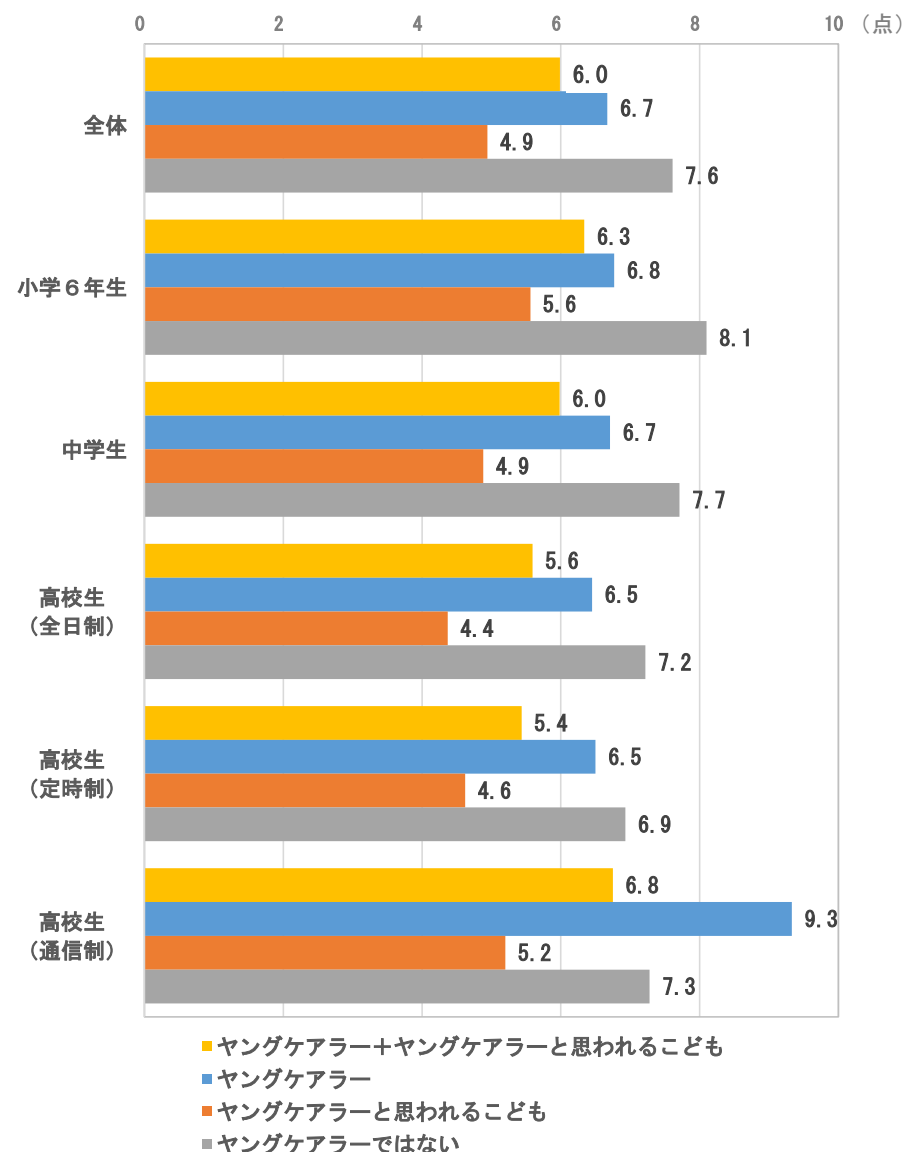
■ ヤングケアラー、「ヤングケアラー」と思われる子ども別

自身の健康(あまりよくない、よくないと回答のみ)



■ ヤングケアラー、「ヤングケアラー」と思われる子ども別

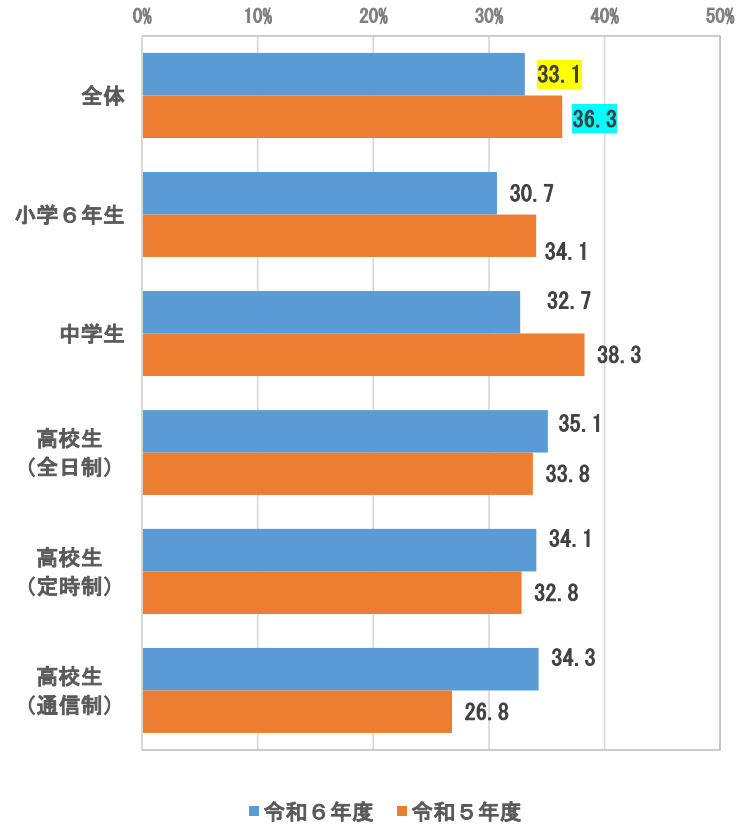
生活満足度(10点をとても満足としたときの平均点)



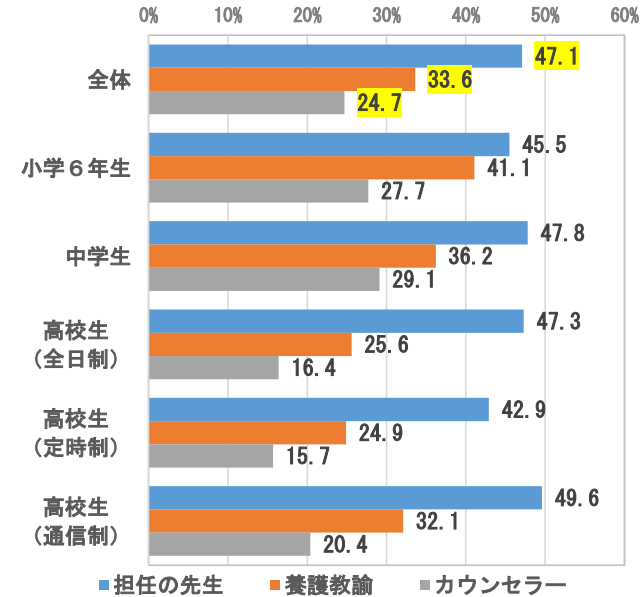
- ・この1年間で、悩んだり困ったりしていることなどについて、学校で大人に相談したことがあるのは全体で33.1%と、令和5年度よりも3.2ポイント低い。
- ・相談のしやすさは、令和5年度と比べて、担任、養護教諭、カウンセラーいずれも1～1.5ポイント低くなっている。

■ 学校の大人への相談状況

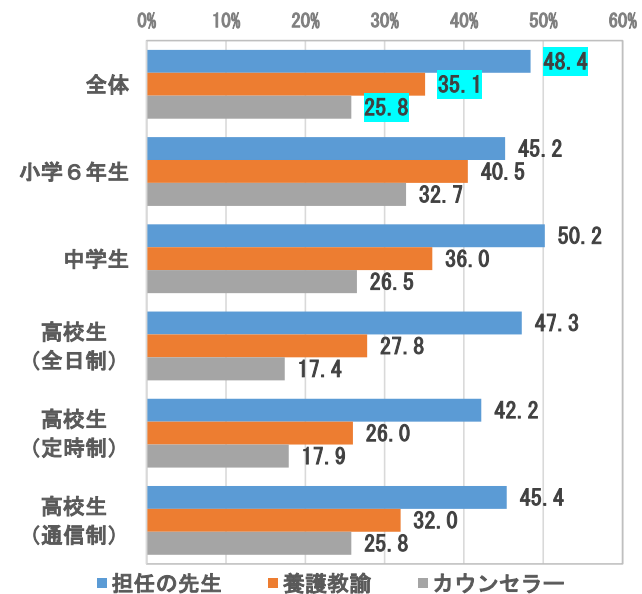
【学校で大人に相談した割合】



【相談のしやすさ(相談しやすいと回答した割合)】

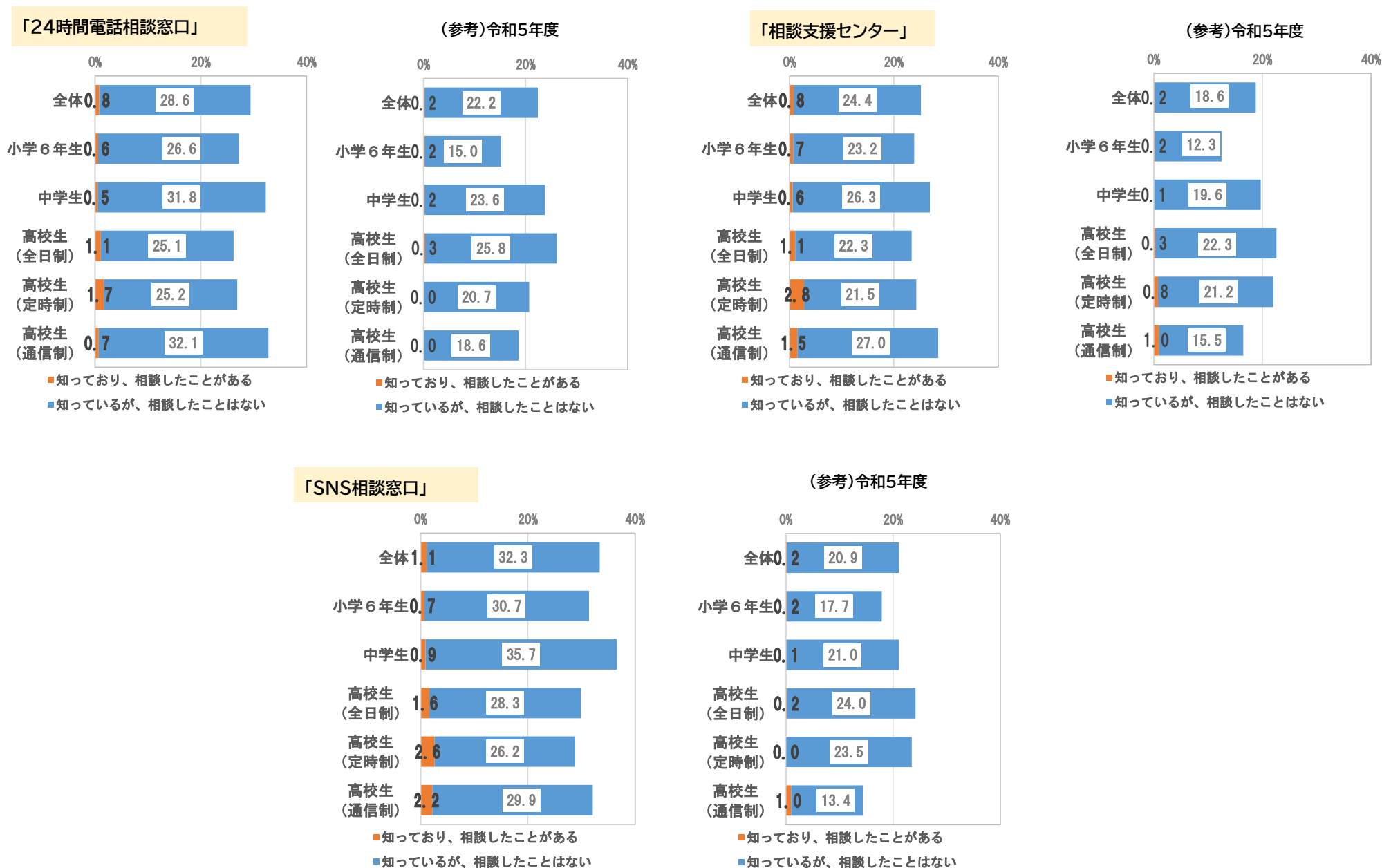


(参考)令和5年度



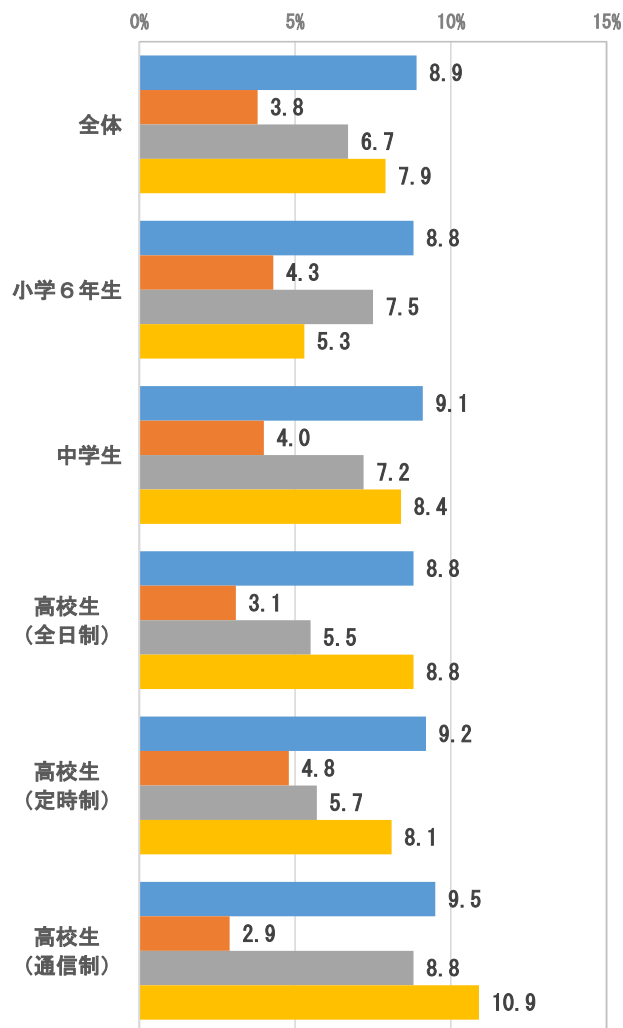
- ・相談窓口について、認知度や利用状況(「相談したことがある」割合)は昨年度より増加している。
- ・認知度は、24時間電話相談窓口や相談支援センターでは、6～7ポイント、SNS相談窓口では12ポイント以上増加している。
- ・利用状況(「相談したことがある」割合)は、特に高校生で増加している。

■ 相談窓口の利用状況



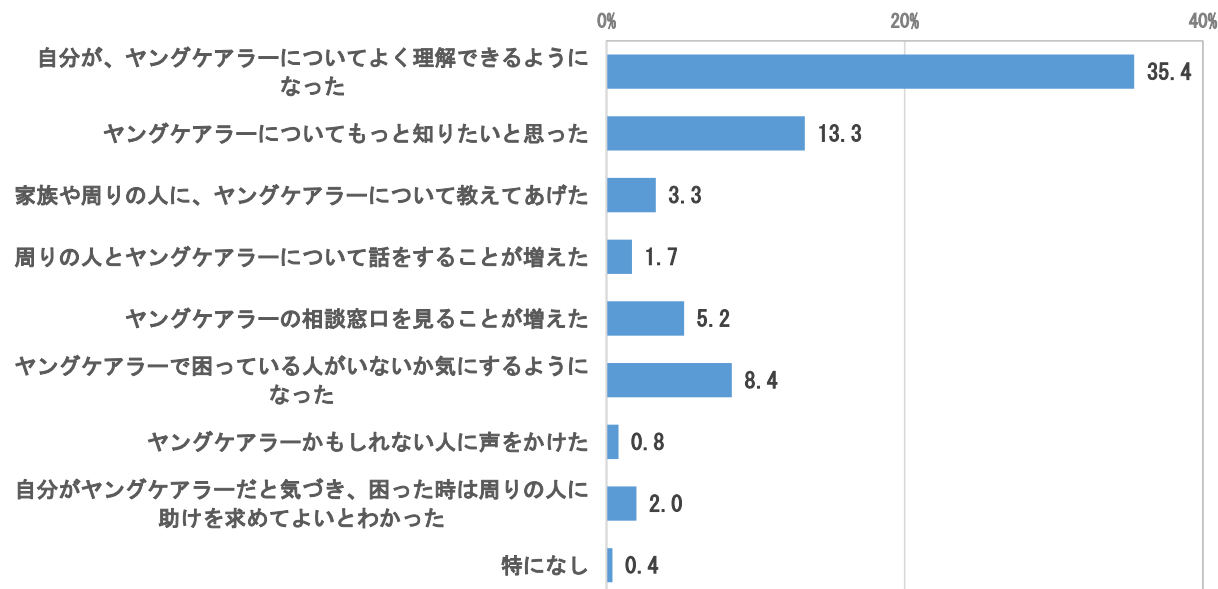
- ・知っている啓発の取組は、TikTokが8.9%で最も高く、続いて相談促進啓発カード(7.9%)、YouTube(6.7%)、X(3.8%)である。
- ・この1年で変わったこととしては、「自身が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」が4割弱であった。
- ・自由意見では、周りの偏見や他の人に相談を求めたときの態度、自由にできる時間や場所に関する意見が挙がっている。

■ 知っている啓発の取組



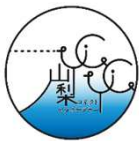
- TikTok「【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラー」
- X(旧Twitter)「【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラー」
- YouTube動画「山梨コネクトヤングケアラー」
- 「山梨コネクトヤングケアラー」相談促進啓発カード

■ この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと(複数回答)



■ ヤングケアラーを助けるため必要なこと、助けてほしいこと(自由意見)

ヤングケアラー	・ 気軽に話せて情報が漏洩しないこと ・ 宿題など家での勉強のサポートや、自分が学校に行こうと思えるようなサポートがほしい ・ 学校に行くと家計が大変なことを隠すため笑顔で学校生活を送っているので時々辛くなる時がある
ヤングケアラーと思われる子ども	・ 親といると疲れてしまうので、子どもが休める場所を作ってほしい ・ 気軽に相談しやすい環境を作る ・ 介護度の高い家族や病気を患っている家族がいる家庭は、学校の授業を家でリモートで受けたり、何かあった場合すぐに対応できる環境が欲しい
ヤングケアラーではない	・ 「大丈夫？」等の心配の言葉よりも寄り添ってほしい ・ 匿名による相談窓口を増やす ・ 介護等の無償化 ・ 学校で年に一度全員カウンセリングを受けることを義務づける ・ ヤングケアラーについての特別授業や講演会



2 県政モニター調査

- ・一般県民のヤングケアラーの認知度は6割強と、令和5年度と比較して7.5ポイント程度低くなっている。
- ・情報源として、年代を問わず「テレビ」で知ったと回答した割合が最も高く、20代以下では、他年代と比べ「新聞」が低く、「SNS」が高い。

◆ 調査対象、回収状況等

（単位：人）

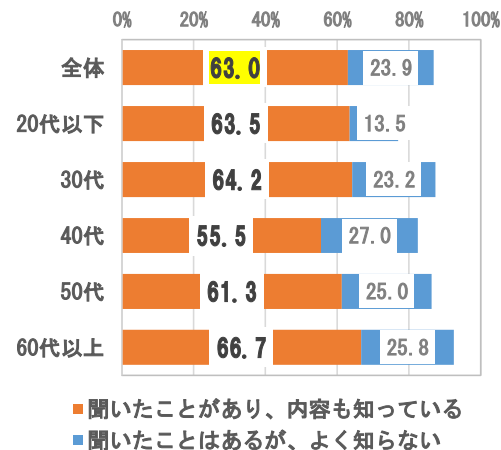
対象	有効回収数	
	R6	(参考)R5
全体	400	340
20代	52	60
30代	54	41
40代	68	65
50代	80	47
60代以上	146	127

※県政モニター調査の集計方法

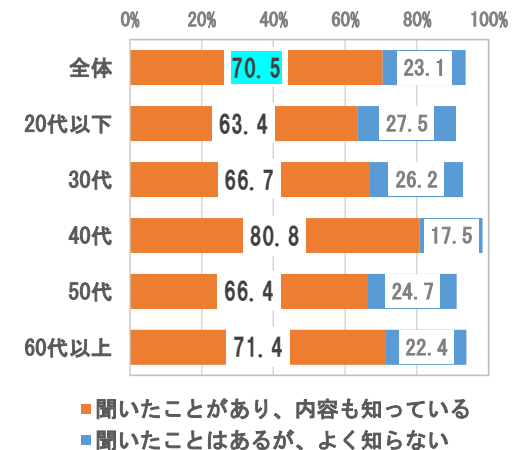
サンプリングによる調査のため、回答者の属性ごとの回収割合は母集団の人口構成と異なる。
そのため、県民の意見を適切に反映できるよう、回答者の属性ごとの回収割合を母集団の人口の構成比にあわせて重みづけをして集計を行っている。

■ ヤングケアラーの認知度、情報入手の経路

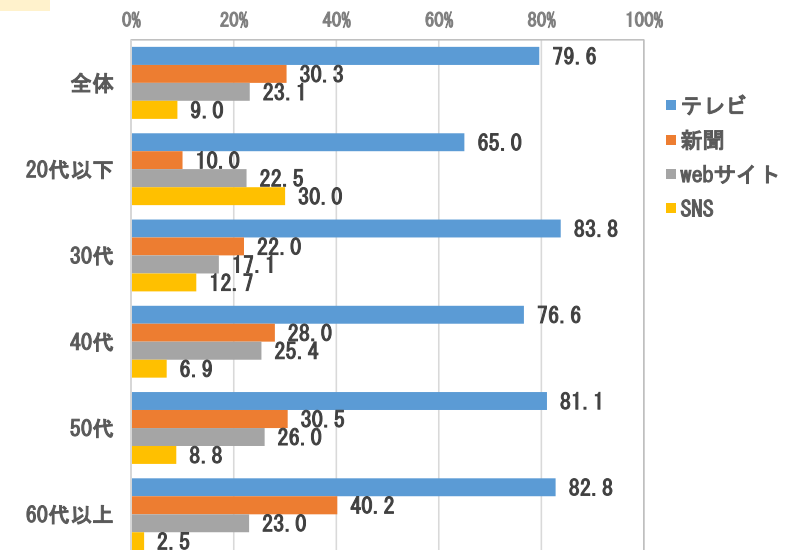
「ヤングケアラー」の認知度



（参考）令和5年度



「ヤングケアラー」を知った方法(上位4つを掲載)

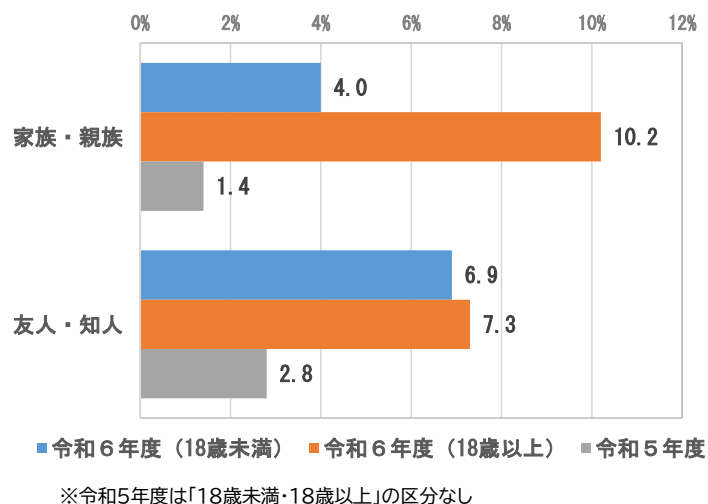


・身の回りで「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる割合は家族・親族で18歳未満が4.0%、18歳以上が10.2%、友人・知人で18歳未満が6.9%、18歳以上が7.3%と、令和5年度と比べて増加している。

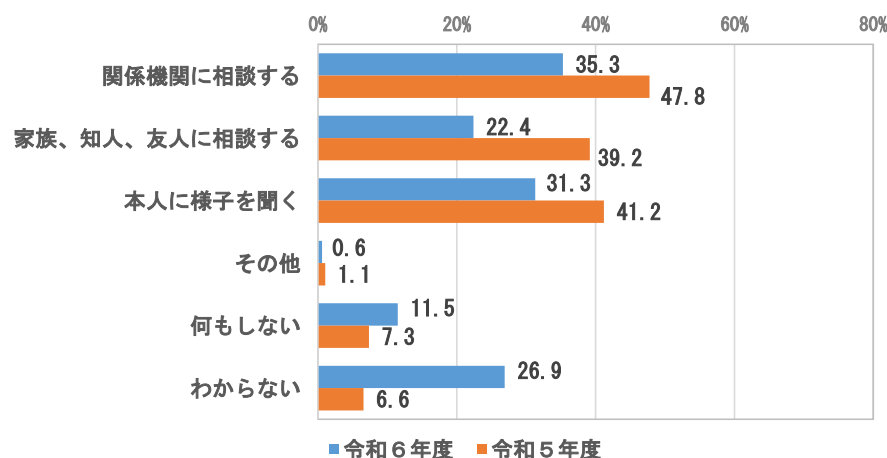
・「ヤングケアラー」と思われる子どもに気付いた際の対応としては、令和5年度同様「関係機関に相談する」、「本人に様子を聞く」「家族、知人、友人に相談する」割合が高いが、いずれも令和5年度と比べて低下している一方、「わからない」割合が20ポイント以上増加している。

・「ヤングケアラー」と思われる子どもに必要なと思う支援は、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」割合が高く、令和5年度と比べて多くが低くなっているが、「わからない」「特にない」「通訳による同行サポート」が増加している。

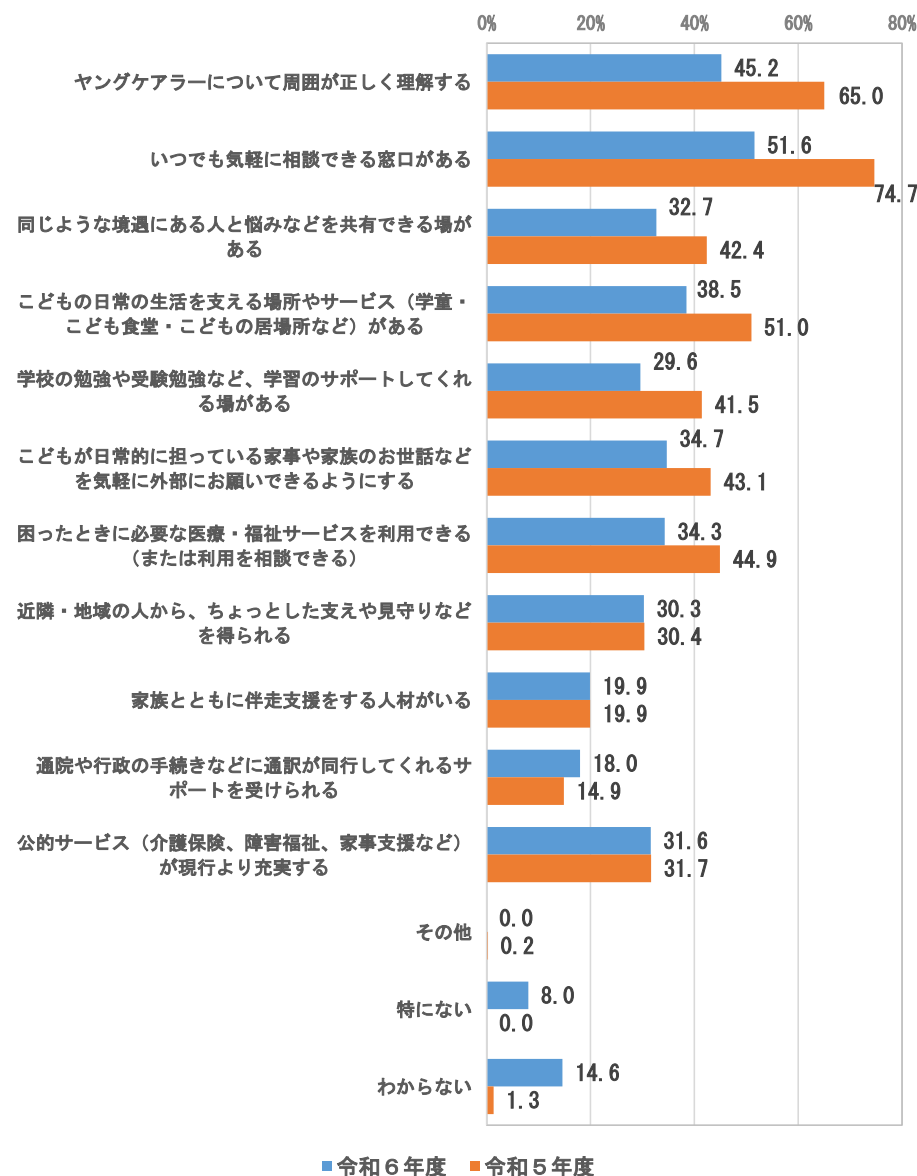
■ 身の回りで「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる割合



■ ヤングケアラーと思われる子どもに気付いた際の対応 (複数回答)



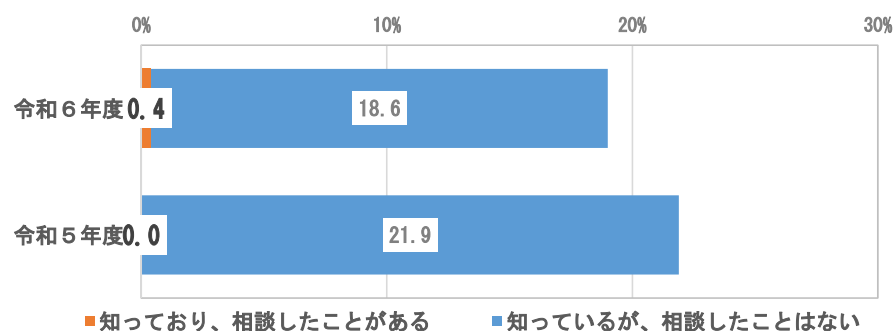
■ ヤングケアラーと思われる子どもに必要なと思う支援 (複数回答)



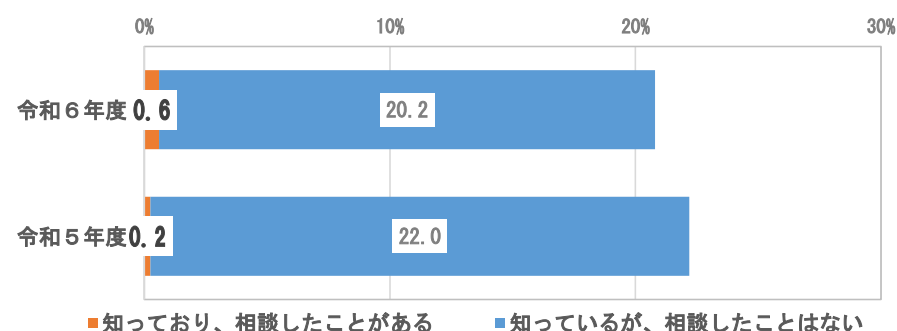
- ・相談窓口を知っている人は「24時間電話相談窓口」「相談支援センター」で若干減少したもののいずれも2割程度、相談したことがある人は1%未満となっており、SNS相談窓口の利用状況は若干増加した。
- ・ヤングケアラーに関するTikTokの啓発動画を見たことがある人の割合は、令和5年度と比べて3.3ポイント増加した。

■ 相談窓口の認知度

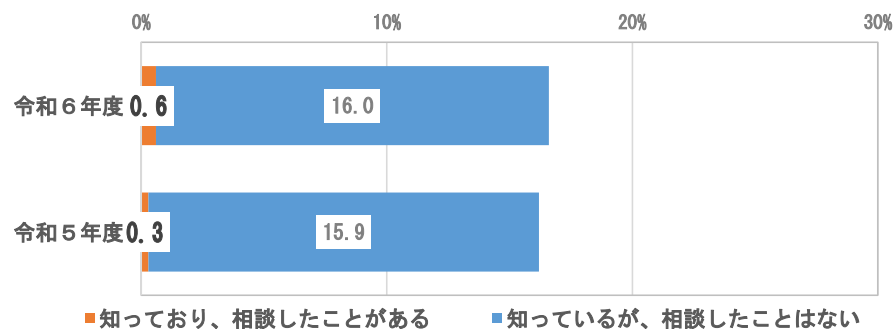
「24時間電話相談窓口」



「相談支援センター」

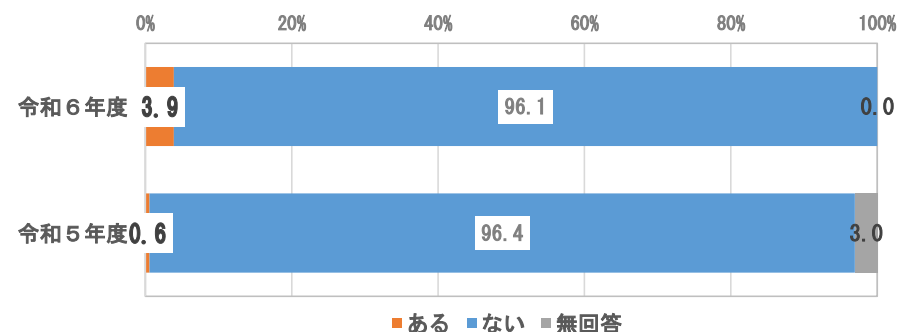


「SNS相談窓口」



■ 啓発動画の視聴の有無

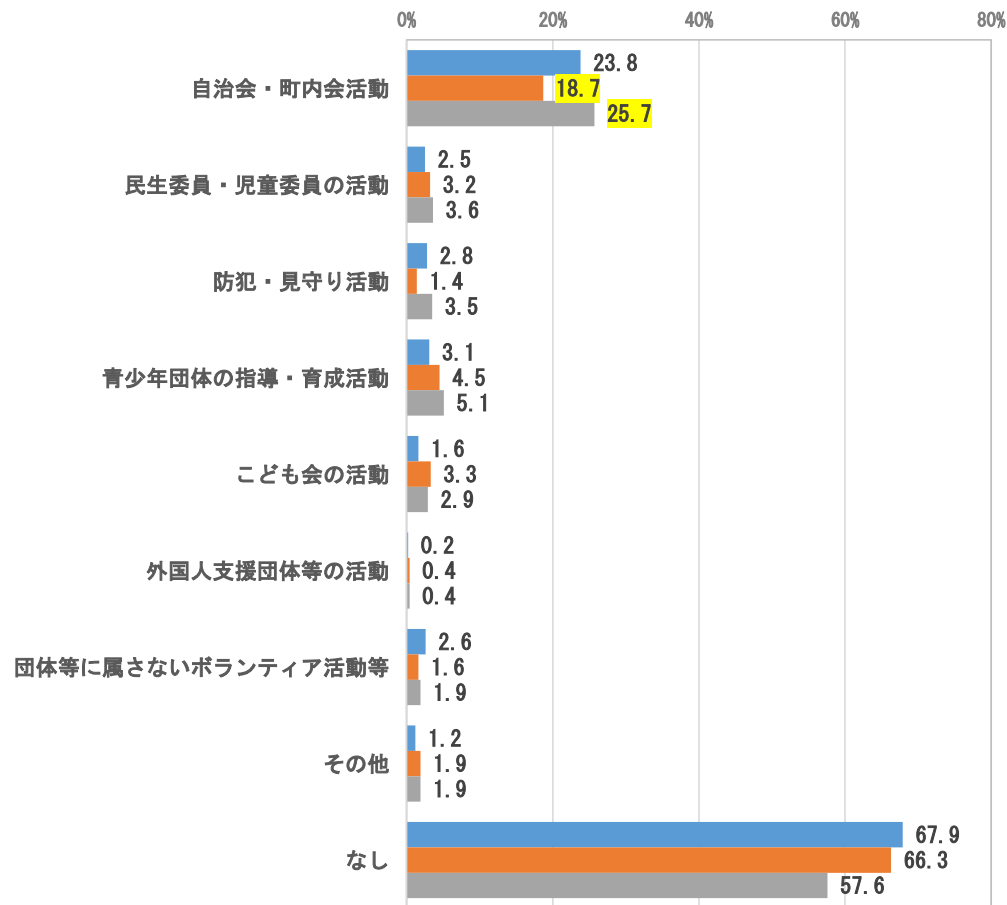
TikTok「山梨県コネクトヤングケアラー」をみたことがある割合



- ・現在参加している活動で、「ヤングケアラーと何らかの関わりがあるもの」「今後、ヤングケアラーの支援として関われるもの」は「なし」を除き、自治会・町内会活動が最も高い。
- ・現在参加している活動において、今後のヤングケアラーに対する関わり方として、「見守り・声かけ」「子ども・若者の話を聞く・相談にのる」、「ヤングケアラーと思われる子ども・若者がいた時に、関係機関や相談窓口相談する」をあげる人が多い。

■ 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わりや今後の意向

現在参加している活動のうち、ヤングケアラーと関わりのある活動、今後、ヤングケアラーの支援として関われる活動



- 現在参加している活動
- 現在参加している活動で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの
- 現在参加している活動で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるもの

今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること

